

時をめぐる写真集

柴岡 信一郎

大学教育出版

は じ め に

本書の趣旨は時代が変わっても変わらない素晴らしい光景、表情、エネルギー、物語、歴史を多くの人に見てもらいたいというものです。

本書は、国内外の風景写真を4つのカテゴリーにまとめました。

- 1 記憶 あの日の熱量 …………… 1
- 2 現在 都市のまなざし …………… 15
- 3 永遠 自然に宿るもの …………… 37
- 4 道 過去・現在・未来 …………… 63

各章には異なる時代の息吹、変わらぬ美しさ、変遷、それらへの敬意があります。

本書を手にとっていただいた皆さんが、きっと足を運んでみたくなる、体験したくなる写真を選びました。

本書に掲載された写真はよく知られたものから、あまり知られていないもの、現在すでに無いものまで様々です。

撮影地は海外の米国、中国、国内の宮城県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、東京都、神奈川県、長野県、沖縄県。

我が国が経済大国の王道を突き進んだ時代、失われた30年、成熟した社会、格差・競争・分断の時代、どのような時代であっても素晴らしいものを素晴らしいと思える感覚で見ただけだと幸いです。

2026年6月

柴岡 信一郎

カテゴリー紹介

1 記憶 あの日の熱量

ここでは二度と同じ光景には出会えない記憶として刻まれた熱量を紹介します。海外で、筆者はいつかこの瞬間が後々誰かの記憶になるのではと考え撮影しました。

1996年アトランタ五輪は米国ジョージア州で開催されました。ジョージア州は公民権運動の象徴的なエリアであることに起因するのか、会場には人種・国境の隔て無い笑顔が溢れていました。人々はスポーツの祭典で皆が一つになれることを実感させられる大会となりました。

2008年北京五輪では陸上競技男子100mでウサインボルト選手が世界記録で優勝し、ボルト時代の幕開けとなりました。開催地中国は初めての世界規模のスポーツイベントのホスト国として必死にその役割を果たしたように見えました。五輪開催中、初めて世界の中心になった国の表情に、若い熱と誇りが混ざり合っていました。

2 現在 都市のまなざし

現在の都市の各所には何かしらの史的な名残があり、どれほどの過去が息づいているのか、現在どのような眼差しがあるのか確かめてみたくなります。アスファルトの下にはかつての土が眠り、建物の陰には人々の営みの名残があります。

駒沢公園（東京都世田谷区・目黒区）は1964年東京五輪の第二会場であり、現在は都内で貴重な都民の憩いの場、スポーツ競技会場として賑わいます。ジョギングする人々の足音は1964年東京五輪の歓声と重なって聞こえます。

浜離宮恩賜庭園（東京都中央区）は周辺に居並ぶ世界的企業のオフィスと、四季折々の花々と美しい庭園のギャップが特徴です。元々は徳川将軍家別邸であり、宮内省所轄の離宮を経て、現在は都立公園となっています。銀座の商業エリアから徒歩圏内にありながら、ゆったりとした時間が流れています。中島の茶屋では抹茶と和菓子が楽しめます。

明治神宮（東京都渋谷区）御苑内にある花菖蒲田は明治天皇が昭憲皇太后のために植えさせたものであり、都心部とは思えない自然豊かな空間です。花菖蒲が見頃の5～6月には観光客で溢れます。

国立競技場（東京都新宿区）はコロナ禍で開催が1年延期となった2021年東京五輪のメインスタジアムとして2019年に開場。1924年に開場し1943年に出征学徒壮行会の会場となった明治神宮外苑競技場、1958年に開場し1964年東京五輪のメインスタジアムとなった旧国立競技場の跡地に建てられました。我が国の中心的な出来事が行われた歴史の重みを感じる空間です。

神宮第二球場（東京都新宿区）は神宮球場に隣接して1961年に開場、首都圏の高校・大学野球の公式戦会場として球児たちの憧れの球場でした。グラウンドと観客席の近さによりお互いの顔が見える一体感が魅力でした。2021年東京五輪開催と明治神宮外苑再開発計画に関連し、惜しまれながら2019年に閉鎖されました。跡地には新秩父宮ラグビー場が新設される予定です。

2021年東京五輪選手村（東京都中央区）は誘致ならなかった「2016年東京五輪」のメインスタジアム建設予定地に建設。2021年東京五輪終了後は大規模マンション群「晴海フラッグ」として転用されました。

霞が関官庁街（東京都千代田区）は国の施策を司る各省庁庁舎が集中します。国土交通省は霞が関官庁街を「明治以降、一貫して国政の重要な機能が集積されており、その存在自体が歴史的に特別な意義を有する」「国民主権、三権分立を象徴する」エリアとしています¹⁾。赤レンガの法務省、総務省、経済産業省、外務省、財務省等の庁舎の中央を突き抜ける桜田通りを歩くと、毅然とした空気とともに「日本の象徴」を実感します。

3 永遠 自然に宿るもの

自然は人の生をはるかに超えた長い長い時間の積み重ねにより変化を伴いながら形成されています。その自然に宿る資源の活用の仕方により、自然の価値はより増します。守る保護することと変化を受け入れることを上手にかみ合わせることで価値は大きく高まるでしょうか。

月浜海水浴場（宮城県東松島市）は親子連れにぴったりのスポットで、波は穏やかで安全、喧騒に邪魔されず、穏やかな時間を過ごせます。近隣には料理自慢の民宿が点在。民宿経営者の多くは漁師さんであり、朝夕の食事では東松島市ならではの海産物が並びます。

妙義山（群馬県安中市他）は日本三大奇景の一つとされ、奇岩奇石、山々の総称です。白雲山、金鶏山、妙義神社、妙義ビジターセンターがある東エリアが「表妙義」、長く交通の要衝として栄えた碓氷峠の発着駅であり峠の釜めしが広く知られるJR横川駅、その車両基地跡地に開園した碓氷峠鉄道文化むら、国鉄廃線跡地の遊歩道、峠の湯、御岳、丁須ノ頭などがある西側エリアが「裏妙義」と呼ばれます。自然と鉄道の融合は大きな観光資源であり、現在妙義山観光の玄関口であるJR横川駅隣接地に道の駅の設置構想があるなど、妙義山はより一層の観光開発が期待されます。

観音崎公園（神奈川県横須賀市）は神奈川県側から東京湾に突き出た位置にあります。元々は江戸湾警備のための船見番所・台場であり、1896年には日本初の洋式灯台が設置。その後、東京湾防備の要塞となり一般立ち入り禁止エリアとなり結果的に自然の宝庫となりました。高台からは東京湾を行き来する船舶を眺めることができます。

走水海岸（神奈川県横須賀市）は観音崎公園の西側にあり、波が穏やか。通年営業の特徴ある海の家、民宿、漁港がある他は静かな環境であり、どの季節でも来る人の心を温めてくれます。

富士山を望む絶景、九頭竜神社、ロープウェイ、遊覧船で知られる芦ノ湖（神奈川県箱根町）ですが、実は静寂に包まれた幻想的な朝霧が魅力です。

上高地（長野県松本市）は国内有数の山岳リゾート地。穂高連峰をのぞむ河童橋、火山の噴火によりできた大正池、湧き水による明神池などにより構成されます。標高1500mの大自然を守るために通年で車両規制がひかれ、自家用車の乗り入れはできません。長野県松本市側、岐阜県高山市側それぞれに自家用車駐車場があり、観光客はそこからシャトルバス、タクシーで上高地の中心部にあるバスターミナルへ向かいます。行きにくいことがかえって人々を引付ける要因になっているのでしょうか。現在、人気の観光地となったので、静けさと賑やかさが同居する観光地となっています。

恩納村（沖縄県）は沖縄県本島中央部の西海岸に位置する景勝地で、観光スポットとリゾートホテルが集中して立地、国内外の観光客が押し寄せる人気の観光エリアです。人口約11,000人に対し、年間300万人が宿泊する観光立村。沖縄県内の観光客数としては空港がある那覇市に次ぐ第2位²⁾。観光客の来村の主な目的は美しい海を中心とした自然の中で、気兼ねなくリゾートホテル滞在を楽しむことです。風と温度と波のリズムが来る人の心を綺麗にしてくれます。

4 道 過去・現在・未来

未来に向かって広がるエネルギー、ものとものを繋げる役割、未知との遭遇、栄枯盛衰がイメージされる景色を集めました。これらの景色は過去、現在、未来を一続きの「道」の様に流れていて、ところどころに境界があります。

「道」として紹介する足尾銅山跡（栃木県日光市）。足尾銅山は1877年に古河グループが経営に着手したことで合理化、近代化が進み日本一の銅山へと成長します。かつて銅山の中心部に位置する深沢地区から奥日光の中禅寺湖に通じる山道があり、複数の茶屋が建ち人々の往来で賑わいました。人の気配が全くない現在では想像がつかません。銅山の縮小とともに人口が減少し、奥日光への始点であり学校、飯場、浴場を備えた銅山社宅として栄えた深沢地区は1996年に無人となり、社宅は2011年上旬に一斉に取り壊され更地となりました。街は無くなりましたが「道」だけが残ります。

旧塩原御用邸跡（栃木県那須塩原市）は塩原温泉街の入り口に広大な敷地ながらひっそりとたたずんでいます。脇の国道を行きかう人々はここに御用邸があったことをどれだけの人が知っているでしょうか。その広大な敷地は子爵家からの献納を受け1903年に御用邸となり、木造平屋、数寄屋造りで造営されました。1946年に視力障害者施設として厚生省に払い下げられ2013年まで使用されていました。約50000㎡の跡地は現在更地となっていますが、観光資源として活用したい地元の要望もあり、有効活用が期待されます³⁾。

国鉄篠ノ井線跡（長野県）は関東と西日本を繋ぐ輸送力のアップのために、信越本線と中央線を結ぶ鉄道として1902年に全通した篠ノ井線の廃線跡です。現在、電車が走ることも警笛が鳴ることもありませんが、関わったたくさんの人々の足跡を感じます。

篠ノ井線は篠ノ井駅（長野市）と塩尻駅（塩尻市）を拠点としています。新線開通（1988年）により「廃線跡」となった西条駅（筑北村）・明科駅（安曇野市）間は長きにわたり急勾配と急カーブで危険がはらむ難所区間でした。廃線跡は西条駅を出てすぐに国道の真下にある旧第一白坂トンネルから始まります。旧第二白坂トンネル、漆久保トンネル、列車本数を増やすために列車を行き違いさせるスイッチバック式信号場、芸術的な造形の線路脇の擁壁、鉄道防備林、電線、橋梁などが現存する廃線跡を進みます。これらは鉄道建設、運用に関わった先人たちの苦勞と気概を肌で感じる空間です。明科駅側に出る三五山トンネルを抜けると、安曇野市街地の奥に広がる北アルプスの眺望が絶景です。

2020年、世界が止まりました。コロナ禍（2020-2023年）では自粛、中止、ステイホーム、ロックダウンといった言葉が飛び交う時世で、本来であれば人で賑わう観光地は異常なほど閑散とし、商店は営業を自粛、イベントや行事は中止、公園は閉鎖、宿泊施設や交通機関は空室空席だらけ、という異様な状況が続きました。「コロナが終わったら～しましょうね」という会話を何度したことか。その中で、私たちは明るい未来のために何を考え、行動してきたか、振り返ってみてはいかがでしょうか。この異様な時期を契機として、明るい未来を迎えるチャンスがたくさんあります。コロナ禍を契機として新しい常識やリテラシーが登場しましたが、私たちは今日現在これらに対応し、使いこなしています。私たちの過去・現在・未来は一続きの「道」のようです^{4) 5)}。

1) 国土交通省社会資本整備審議会答申、2008年6月

2) 「広報おんな」（恩納村）、『国内観光客行動歴分析レポート2024年度』（沖縄県、2025年）

3) 「旧御用邸取得を進めて」 那須塩原市民、市長に要望書 塩原視力障害センター跡地」産経新聞、2017年8月22日

4) 柴岡信一郎「ずいひつ 変化を受け入れる姿勢とマーケットへの対応」『財界』財界研究所、2023年9月号、一部引用

5) 柴岡信一郎「ずいひつ “失われた30年”とアフターコロナ」『財界』財界研究所、2025年10月号、一部引用

1

記憶 あの日の熱量



アトランタ五輪① 1996年



アトランタ五輪② 1996年



アトランタ五輪③ 1996年



アトランタ五輪④ 1996年



アトランタ五輪⑤ 1996年



北京五輪① 2008年



北京五輪② 2008年



北京五輪③ 2008年